

令和元年12月2日（月）
富山県砺波農林振興センター

土地改良区職員研修会を開催しました

砺波農林振興センター管内の土地改良区において近年若手職員の採用が相次いでいることから、若手を中心とした職員の技術力向上を図るため、12月2日（月）土地改良区職員研修会を開催しました。

本研修会は、午前がコンクリート基礎を座学で学ぶもの、午後が氷見市土地改良区の管理施設を見学するもの、と二部構成で行いました。

午前のコンクリート基礎においては、今年からのコンクリートスランプの変更やコンクリート体積収縮を中心に学びました。コンクリートスランプの変更では、スランプを8cmから12cmへ変更するに当たり単位水量を増やす際の上限值、コンクリート体積収縮では、ひびわれの起きにくいセメント種類や配合等の観点から学びました。

午後の氷見市土地改良区での現地見学では、五位ダムからの用水の配水管理を担う水管理システム、十二町潟等の排水を担う排水管理システム、電気設備、大小様々なポンプ、除塵機、ゲート等を見学しました。そこでは、職員が24時間交代制でポンプ運転を監視しており、非当番で夜中就寝中であってもわずかな雨音で目が覚めるという職員の言葉から、重要な施設を管理している担当者の意気込み等を学びました。

その後、ほ場整備事業大浦地区ファームポンドや氷見広域農道高盛土区間へ移動し、軟弱地盤における工事の苦労や設計対応等を学びました。

今後は、ここで学んだことを活かし、土地改良区職員として技術研鑽等に励まれるよう期待しています。



コンクリート基礎の座学



排水管理システムの見学



排水ゲート、潮止水門の見学



大浦ファームポンドの見学